大阪、福岡2工場で7万坪

施工提案や経営スピード向上へ

村上木材

村上木材（大阪市、佐原謙次社長）は、構造プレカットを子会社のプレテック（同、矢山勝司社長）とプレテック福岡（福岡県朝倉市、福栄との共同出資）で行っており、昨年通期は、プレテック4万5000坪とプレテック福岡2万5000坪で合計7万坪を供給した。

同社はプレカットを含めた総合提案力の強化を図り、2014年に材工込み販売を開始した。物販だけでは差別化できなくなるという危機感に加え、職人減少が加速化しており、施工力の確保が販売先との連携強化で重要と考えたのだ。

そのため、村上木材が現場監督担当を社員化するのに加え、プレテックでは大工経験者を工場作業者として社員化。自社施工によりフレーミングと内装工事などにも対応しており、現在は神社仏閣の建築経験者を含め3人の大工を社員化している。月間2～3棟ペースで木造建築に対応するのに加え、不需要期にはマンション建具工事にも対応する。

今後は大工社員の人脈も生かして外部施工キャパの引き上げにも力を入れていく。

また、プレテックでは許容応力度計算による構造計算業務が軌道に乗っており、3階建てや2階建ての受注が増えている。今後はさらに人材を強化して供給力を強めるとともに幅を広げていきたいとしている。

村上木材の商材販売では、プレカットや木材の販売に加え、住設機器販売やムクフローリングなどの自社★ブランド製品、太陽光発電などまで、住宅にかかわるあらゆる製品を一気通貫で供給する体制を目指す。そのため、自社の強みを強化するとともに、幅広い流通チャンネル企業との連携も進めていく。

プレテックのプレカット供給は現在月間平均4000坪で、今後は安定的に月間4500～6000坪への供給へ引き上げたい考え。また、同社はもともと、地域企業による合弁工場だったが、この4月に村上木材が100％出資子会社に組み入れた。

「新設住宅着工戸数の大幅な減少が目前に迫り、住宅業界は大きな変革期を迎えている。時代の流れはより速くなると考えられ、経営のスピードアップがさらに必要と考えた」（佐原社長）。